

震災に備え、社員の安全を管理する会社はどのような対策を取っておけばいいのか。愛知県防災局が作成した「事業所のための防災マニュアル作成の手引」から、災害時に対応する組織体制や情報収集の方法などを紹介する。あなたや家族、知人の勤めている企業は、どれぐらい当てはまりますか？

●組織体制
非常事態に速やかに対応する本部機構のメンバー、設置基準、設置場所を決めておく。最高方針を

情報収集・安否確認

決定できるトップの下に担当者を配置。交通機関や自動車を使わずに来社できる人をメンバーに含める。本部機構の任務内容も想定し、表として、だれが何をするか明確

役割分担を明確に

にしておく。
●緊急連絡網
安否情報が一元化できるように整備する。早く連絡を完了するため一つのグループの社員数は五人以

内に。各社員は自宅と親など、離れた地域の二カ所以上の連絡先を登録する。電話が使えない場合を想定してメールなど、連絡手段を多く確保しておく。常に最新のものに更新する。

●情報収集と提供
被災状況、従業員の安否、交通機関の状況などの情報をだれが収集し、提供するが明確にする。

●備品
救急医療セットや携帯ラジオ、懐中電灯、社員名簿、軍手、マスク、電池などを入れた非常用バックパックを職場に保管する。重要書類は耐火金庫に保管し、非常時に持ち出す書類は最小限に。三日間ほどは自力で対応できるように食料、炊事用具、衣料、救急器材、生活用品などの非常用品を被害が受けにくい場所に確保する。

本部機構の任務例

- ・社員、家族の安否確認
- ・被災状況の把握、提供
- ・救出、救助の応援指示
- ・必要機器材、資金などの調達
- ・広報、近隣事業所や関連会社との情報交換、支援要請

会社の対策

やライフラインの確保に必要な機関の連絡先は一覧表にしておく。

悩ましい受験先選び

「ただいまー」。7月中旬、仮設住宅に沙也加さんの声が響く。玄関先でまつわりついてきた飼い犬のタローの頭をひとしきりなで回し、沙也加さんは茶の間に上がってきた。

あすから夏休み。とはいえ、気持ちは軽くない。来春に高校受験を控える身だけに、

夏休みは文字通りの「休み」にはならない。

先日、終えたばかりの実力テストの結果は「最悪の出来」だった。「特に英語。まあ、予想はしていたけれど…」

特別に難しいわけではなかったのに、学年の平均点が90点台なんて教科もあった。教室の仲間も勉強する余裕なんて無かったんだろうと思う。自分だってそうだった。何しろ、原発の事故で避難生活が始まってわずか4カ月の間に、3度も自宅が変

いづの目か
原発1キロの避難

—11—

わったのだから。

受験先を選ぶのも悩ましい問題だ。もともと目指してきた地元の公立高校は原発事故で避難を強いられた。今は他校に「間借り」をしながらの授業をしているが、何か肩身が狭そうに思える。最近は福島県会津若松市内で進学先を探すことも考えている。

最終的に志望校を決めるのは11月。多少の時間は残っている。頭の中のもやもやを

振り払うかのように、沙也加さんは茶の間に、ドーンとノートを広げる。「とにかく悔いのないよう頑張る」。勝負の夏。被災を言い訳にしたくない。

【はなわ】さん一家 原発事故で福島県大熊町から避難。光一さん（43）と妻幸さん（43）、次女沙也加さん（15）は愛知県豊田市で暮らし、会津若松市に移った。長女梨奈さん（18）は東京で大学生生活。